



学校だより

御前崎市立白羽小学校

かがやく浜の子

平成28年1月

『明るいあいさつが響き渡る白羽小に』

新年明けましておめでとうございます。新しい年平成28年申年を迎えました。1月5日には、御前崎市のトップを切って白羽小学校の3学期がスタートしました。

また、この日は「白羽小あいさつの日」のスタートでもあり、サポート隊や老人会、PTA役員と会員の皆様が朝通学路に立ち、子どもたちにあいさつのシャワーをたくさん掛けてくださいました。心から感謝いたします。ありがとうございました。皆様のあたたかな声掛けのおかげもあり、子どもたちは元気いっぱいではじめ式を迎えられました。この機会を活かして、今回は御都合のつくサポート隊の皆様を学校の始業式にお招きして紹介をさせていただきました。18名の方が来校してくださり、全校児童に向けて言葉を掛けてくださいました。「毎日子どもたちのあいさつから、元気や力をもらっているよ。」「子どもたちからあいさつされると心があたたかくなって、明るい気持ちになるんだよ。」「あいさつの声が小さいと、今日は朝家を出るときに何かあったのかな、体の調子が悪いのかなと、とても心配になります。」等々、毎朝子どもたちを安全や安心を願って、見守りや声かけをしてくださっている方々の『思い』が伝わってきました。そして、子どもたちが地域を明るくしている存在であることにも気づかされました。3学期は、『いつでもどこでも誰にでも一人でも』を目指して6年生を中心とした子どもたちからのあいさつ運動も再スタートします。

次回の「白羽小あいさつの日」は2月10日(水)です。寒い中ではありますが、朝のあいさつが白羽地区中に響き渡るように、皆様の御支援と御協力をお願いいたします。



『やさしさいっぱい』のステージ 始業式より

夏休みに応募があった御前崎市絵本コンクールに本校から8人の児童が作品を出展しました。どの作品もその子らしくて、とてもすばらしいものでした。その中で、教育長賞を受賞した6年1組増田翔愛さんの『こころのたまご』という作品を朗読しました。この本は、仲よしの友達とけんかした主人公のすばるくんが、何も見たくない聞きたくない誰にも会いたくないと自分の「こころのたまご」に閉じこもってしまいます。そのすばるくんの「こころのたまご」にやさしい風ときれいな花と流れる川の水とあたたかな太陽がそれぞれに声を掛け「こころのたまご」の殻を割っていきます。こころを開いたすばるくんはけんかした友達に謝ろうと部屋を飛び出していきます。作者の翔愛さんは、日常の中にある誰もが経験したことのあるような場面からすてきな物語をつくり出してくれました。

白羽小学校を『やさしさいっぱい』の学校にするためには、

- * 絵本の主人公すばるくんのように、こころを開いて自分の気持ちを言葉で伝えること
- * 伝え合えば、お互いの気持ちを知ることができる。
- * 知り合ったら、お互いにわかり合うこと、
- * わかり合えば、お互いに相手のことを思い合うことができる。
- * 思い合うことができれば自然に「ありがとう」と感謝の言葉を言いたくなる。
- * 「ありがとう」の言葉が広がれば、やさしい気持ちも広がる。



『やさしさいっぱい』の学校をつくっていくのは私たちみんなです。みんなが心掛けてみんなにとって居心地のいいすてきな白羽小学校をつくっていきましょう。

(校長 増田久美子)

